

2020年3月期第2四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2019年12月11日



自社の牡蠣加工工場で作った、こだわりのカキフライ
世界に認められた美味しさ
iTQi優秀味覚賞を受賞！
カキフライは日本初！



iTQi(国際味覚審査機構)とは、ヨーロッパで最も権威のあるシェフとソムリエ協会に属する「味覚のエキスパート」による「美味しさ」の審査・認証する独立機関です。



1. 第2四半期 トピックス



1 上期業績は増収、営業損失は縮小。

特に「店舗事業」は店舗数が減少したにもかかわらず、予約数の拡大などを背景とした既存店売上高の伸びにより増収、及び増益を実現。

2 卸売事業は、販路拡大で、取引数も増え、前年同期比で+20.2%の増収。

3 利益面では、加工事業の本格稼働に伴って仕込みが上期に集中し、費用が先行。

4 リニューアルOPENした店舗は好調な立ち上がり。

2019年1月より休業していた「博多ステーションオイスターバー」（福岡）が、7月26日に「レカイエ オイスターバー JR博多シティ店」としてリニューアルを行い、好調な滑り出し。

5 転換社債型新株予約権付社債、及び、新株予約権の発行

財務健全化と設備更新投資及び成長投資が目的の資金調達を実施。転換社債型新株予約権付社債で、106百万円を調達。コミットメント条項付き新株予約権を発行し、行使により最大640百万円の調達（予定）。

連結損益計算書概要

前年同期比で店舗数が減少したものの、既存店が好調に推移し、売上高は増収。利益面においては、加工工場の仕込みが上期に集中し費用が先行したが、損失幅は縮小。

(百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減額	ポイント
売上高	1,697	1,726	+28	・店舗事業は店舗数が（1店舗）減少。
売上総利益	1,126	1,112	▲13	・加工工場の仕込みの先行費用で、原価がUP。
販管費	1,269	1,242	▲27	
営業利益	▲142	▲129	+13	
経常利益	▲140	▲129	+11	
当期純利益	▲132	▲113	+19	

貸借対照表概要

加工事業の集中仕入れ等により「棚卸資産」が増加した一方、「現預金」や「売掛金」が減少したことから総資産は前期末比で減少。

(百万円)

資産の部	2019年3月期 期末	2020年3月期 第2四半期末	負債・純資産の部	2019年3月期 期末	2020年3月期 第2四半期末
流動資産	510	384	流動負債	759	841
現金及び預金	131	55	支払手形・買掛金	123	159
売掛金	206	182	短期借入金 ^{*1}	258	338
棚卸資産	100	127	その他	377	345
その他	72	20	固定負債	691	613
固定資産	1,255	1,259	長期借入金	181	131
有形固定資産	1,022	1,030	その他	509	482
無形固定資産	4	3	負債合計	1,450	1,454
投資その他の資産	228	226	純資産合計	315	189
資産合計	1,765	1,644	負債純資産合計	1,765	1,644

*1. 1年内返済予定の長期借入金を含む

セグメント別業績概況

「店舗事業」及び「卸売事業」は増収増益を実現、一方「加工事業」は費用が先行。

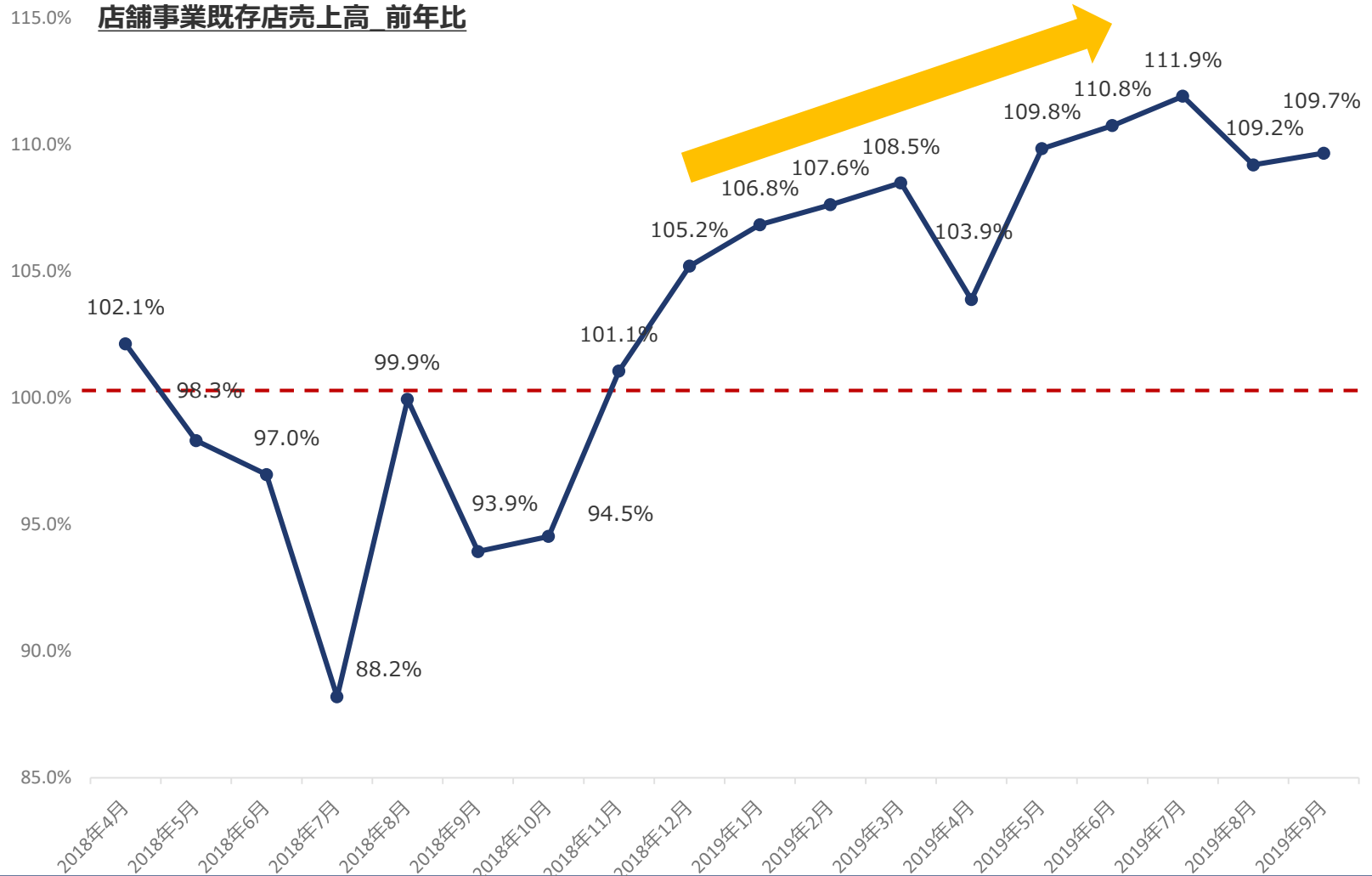
(百万円)

		2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比 (%)	ポイント
店舗事業 オイスターバーレスト ランでの飲食サービス	売上高	1,571	1,574	100.2	前期における不採算店の閉店により店舗 数は前期同期比で減少（1店舗減）と なったが、既存店が好調に推移。 【店舗数：26店舗（2019年9月末時点）】
	営業利益	83	112	134.2	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品 の外販卸売り	売上高	114	137	120.2	取引先の増加など販路拡大に積極的に取 り組み、順調に増収増益。
	営業利益	46	55	121.0	
浄化・物流事業 生牡蠣用の浄化セン ター、および物流事業	売上高	247	281	113.9	生牡蠣に加え、牡蠣フライなどの加工品 の物流量が増え、物流費が増加。
	営業利益	▲100	▲111	—	
その他 陸上養殖、加工事業、 種苗など	売上高	45	140	308.5	加工工場が本格稼働し、1年分の仕込み がこの時期に集中し費用が先行。
	営業利益	▲72	▲103	—	
調整額	売上高	▲281	▲408	—	
	営業利益	▲100	▲82	—	
連結財務諸表 計上額	売上高	1,697	1,726	101.7	
	営業利益	▲142	▲129	—	

既存店売上高推移

前期において不採算店の撤退を実施したことに加え、客数の回復及び客単価の向上により、既存店売上高は前年同期比109.2%（上期実績）に伸長。

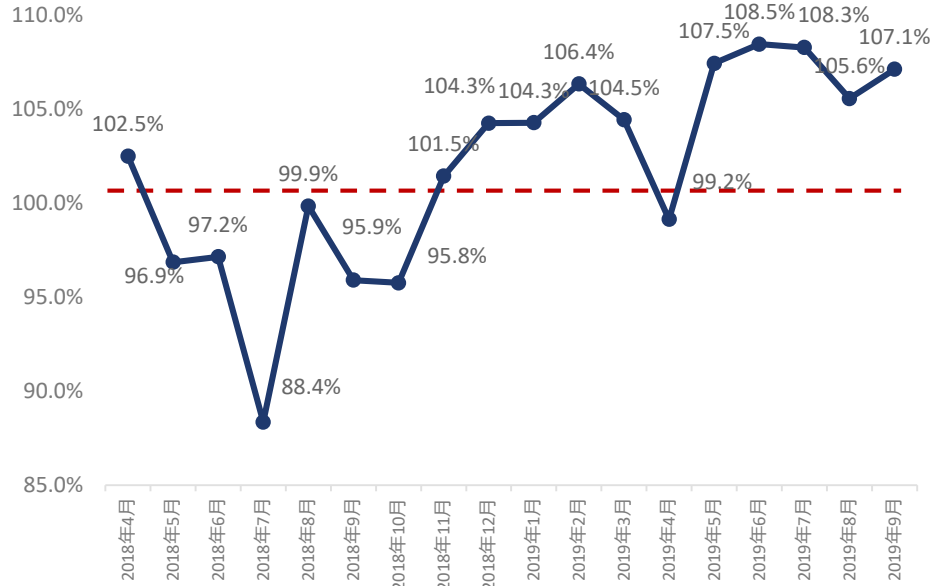
115.0% **店舗事業既存店売上高 前年比**



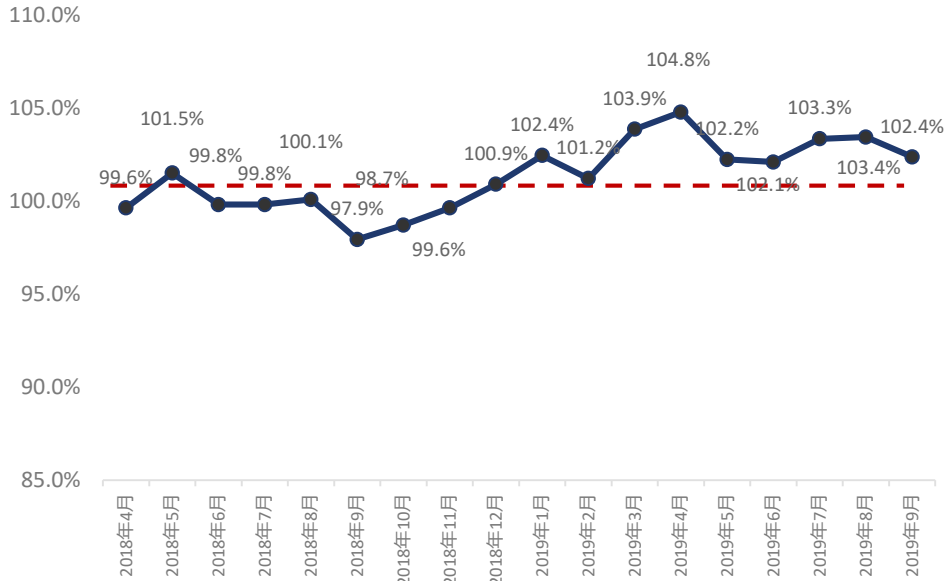
既存店客数・客単価推移

上期実績で、既存店の客数は106.0%、客単価は103.0%と好調に推移。

店舗事業既存店客数 前年比



店舗事業既存店客単価 前年比

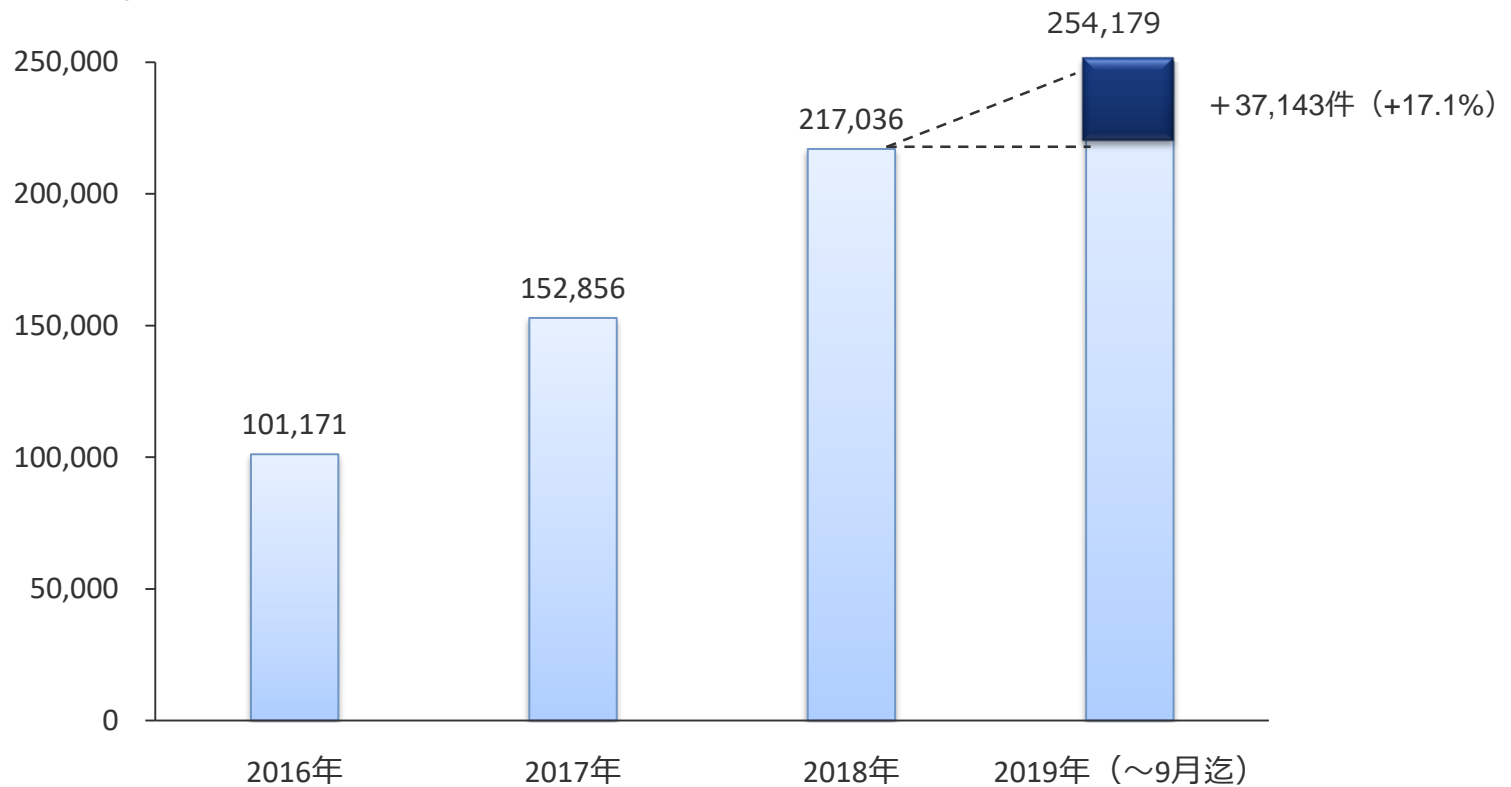


OPC会員数推移

店舗で利用できる「オイスターピースクラブ（OPC）会員数」は順調に拡大し、25万人を突破（前期末比約3.7万人増）。顧客基盤の底上げに寄与。

OPC会員数推移

(単位：人)





2. 資金調達について

財務の健全化 — 資金調達の実施（最大約7.4億円）

転換社債型新株予約権付社債の発行、新株予約権の発行により最大約7.4億円の資金調達。

調達手法	割当先	調達額
①無担保転換社債型 新株予約権付社債	マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社	106百万円 (11/29払込完了)
②コミットメント条項付き 新株予約権	マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社	最大640百万円 (うち637百万円は行使 により調達予定)



財務の健全化への充当 + 設備更新投資・成長投資への充当



3. 2020年度3月期 業績見通し

通期業績見通し

繁忙期となる下期は、「加工事業」における前倒し費用の解消や売上高の伸びにより損益改善を実現し、黒字転換を目指す。

(百万円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 業績予測	前年同期比 (%)
売上高	3,706	3,737	+0.8%
営業利益	△21	35	-
経常利益	△18	19	-
当期純利益	△269	9	-
(参考)EBITDA	72	127	+76.3%



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。